

# NMT 国臨協関信

関信支部ニュース第235号 令和6年4月



支部HPアドレス  
<https://www.kanshinshibu.org/index.html>



支部NEWSアドレス  
<https://www.kanshinshibu.org/member/news.html>

●事務局 / 〒162-8655東京都新宿区戸山1-21-1  
国立国際医療研究センター病院  
中央検査部門内

●発行者 / 吉田茂久  
●編集委員 / 齋藤広樹 竹内智也 鷹取有紀 中村良幸 飯田伊織  
●印刷所 / 一喜堂印刷株式会社 ☎0268-35-2624



## 合同交流会・ビアパーティーのお知らせ

令和6年度国臨協関信支部合同交流会につきまして、コロナ禍が収束に向かっているなかで開催について検討協議した結果、今年度の開催は難しいと判断し残念ではありますが昨年に引き続き中止することといたしました。しかし、令和6年度国臨協関信支部ビアパーティーについては今夏、開催予定としております。開催日時や場所等は後日報告させていただきますので是非ご参加いただきたいと思います。

会員の皆様におかれましてはご理解賜りますようお願い申し上げます。

# 定年を迎えて



## NHO 東埼玉病院 小沼 進吉

令和6年3月31日をもちまして、定年退職を迎えることになりました。関信支部ニュースの紙面をお借りし、ご挨拶並びにお礼申し上げます。

令和5年4月に国立病院機構理事長名にて定年及び定年退職日通知書を受け取りました。「〇月〇日をもって定年に達するので、3月31日が定年退職日となっております」の文面です。当然、承知していることではありましたが、少し寂しい思いを感じたのと同時にこれまでの事が一瞬にして頭の中を駆け巡りました。

昭和60年4月1日、国立病院医療センターに賃金職員として採用され、本採用としては37年間8施設での勤務となりました。自分にとって一番忘れられないこととして、国立がんセンター東病院及び千葉医療センターでの新棟立上げ準備から新病院での勤務を2度も経験したことです。特に千葉医療センターでは同敷地内での建設であり、より現実味を感じました。病院の引っ越しはかなり苦労しましたが、新たな設備、機器、システム、運用面での構築などに関われたこと、そして病院スタッフ皆との共同により、組織の中で各部署との連携、人との繋がりを強く意識するようになりました。これと重なる時期に第30回及び40回の関信支部記念学会を支部役員として務めることができ、これもまた共同、人との繋がりとして2度の貴重な経験となりました。これらすべては先輩方、同僚、後輩方、常に支えていただいた皆様方のおかげであり、恵まれていたと感謝しております。言うまでもなく医療の現場は目まぐるしい変革の時代を迎えています。個々のスキルはもちろんのこと、皆で知恵を出し合い意識を高め、困難な課題も協力して対応していく共同こそが今後も重要であると思います。そして臨床検査技師として、医療従事者の一員として未来に向けた社会貢献に繋げることができると期待します。

最後になりますが、国臨協関信支部の益々の発展と皆様方のご多幸とご活躍を心より祈念して、挨拶に代えさせていただきます。本当に長い間ありがとうございました。



## 国立国際医療研究センター国府台病院 竹内 智明

このたび本年3月31日付をもちまして、定年退職を迎えることとなりました。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

昭和62年に、国立高崎病院に賃金職員として採用されてから西群馬病院・国立国際医療センター・横浜医療センター・埼玉病院・相模原病院・さいがた医療センター・国府台病院と異動し約36年間で8施設を勤務いたしました。この間、多くの方々に支えられ沢山のことを経験し学ばせていただきました。振り返るとそれぞれの施設に多くの思い出があります。そしてその時々では苦しい事や大変な事が多かったように思いますが、今振り返ると不思議なことに楽しかったことが思い出されます。これは各施設でご指導いただいた上司の方々や先輩はもちろんのこと、同僚や部下などお世話になった様々な方にお力を貸していただきました結果と思っています。また、協議会等にも参加させていただき様々な方々に支えていただきました。協議会では職場の関係を離れ多くの諸先輩・仲間と巡り合えたことは、私の価値観を変え定年まで勤めることが出来た大きな要因と思っています。この場をお借りして、本当に心より感謝申し上げます。今後は引き続き臨床検査技師として患者さんの為に検査に携われればと思っています。

最後になりますが、国臨協関信支部の発展と皆様のご多幸とご活躍を心より祈念して、挨拶とさせていただきます。長い間ありがとうございました。

## 国立成育医療研究センター 澤部 祥子



思い起こせば34年前、今ではもう死語となりつつある「寿退職」をして、「専業主婦」になる予定でいました。ところが、ひょんなことから国立療養所下志津病院に賃金職員として採用されたのをきっかけに、国立医療機関7施設を渡り歩くことになったのです。よもや定年までお世話になるとは、当時は夢にも思いませんでした。

様々な施設でたくさんの思い出があり、目を閉じると走馬燈のように蘇ってきます。肺機能検査の掛け声がうまいと患者さん(の家族)に褒められてうれしかったこと、40歳過ぎてからのエコーの試験勉強で頭が爆発するかと思うほど苦しかったこと、東日本大震災後の計画停電で思うように業務ができずつらかったこと、ミッキーバスの送迎付きで舞浜のホテルで忘年会をして楽しかったこと、身近な先輩や同僚との永遠の別れがあり悲しかったこと…。

さらに、9年に渡り国臨協の役員をさせていただいたことで、関信支部の方々のみならず、関信支部以外の支部の方々ともつながりができ、自施設にこもりがちだった私にとっては、視野を広げる貴重な経験となりました。コロナ禍でしばらく途絶えていた直接交流も再会され始め、また以前のように活発な協議会活動ができる日も近いのではないのでしょうか。

なにはともあれ、定年まで勤め上げることができたのは、周りの方々のお力添えのおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。長い間本当にありがとうございました。

最後に、国臨協関信支部のご発展と皆様のご活躍を心より祈念して、挨拶とさせていただきます。

## NHO まつもと医療センター 岡村 治



本年3月31日付をもちまして、定年退職を迎えることになりました。この機会に、皆様にご挨拶申し上げます。

昭和60年4月に国立西埼玉中央病院に賃金職員として採用されてから令和6年3月まで38年間、臨床検査技師として8施設で勤務できたことは、私にとって大きな誇りであり幸せなことでした。この長いキャリアの中で、様々な施設での経験を通じて、国立病院機構の特徴的な政策医療に貢献できたことを喜びとしています。また、新たな出会いや学びがあり、患者さんや他の職種との連携、専門知識の獲得など、多くの貴重な経験を積むことができました。48歳からは副技師長として2施設6年間勤め、品質管理者の立場でISO 15189認定取得に関わることができました。技師長としては2施設6年の勤務となりますが、技師長協議会活動においても関信支部の多くの方々に支えていただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

定年退職という節目を迎えるにあたり、この長い道のりは一人ではなく、家族や同僚の支えがあったからこそ、この日を迎えることができたのだと感じています。臨床検査技師の仕事は、私にとって非常にやりがいのある仕事だと思っています。臨床検査の取り巻く環境は、私の若いころから大きく変化してきました。そして、この4月から医師の働き方改革が施行される中で、臨床検査技師は自身の役割や業務について常に意識を向け、タスク・シフト/シェアや業務拡大など柔軟に対応し、前進していただきたいと思います。

最後になりますが、国臨協関信支部の発展と皆様のご多幸とご活躍を心から祈念して、私の挨拶とさせていただきます。長い間お世話になりありがとうございました。

## NHO 横浜医療センター 濱田 靖



今まで、気楽に拝読していた関信支部ニュースの定年執筆の順番が参りました。定年退職は遠い先の様に感じておりましたが、急に順番が回ってきた感覚です。存在感の薄い存在でしたので、スーッと気配を消し、気が付いたら「そう言えば最近姿を見ないね?あれ、定年だったっけ?」と半年くらいしてから気付かれる計画でおりました。

昭和61年に国立東京第二病院(現、東京医療センター)に賃金職員で採用され、紆余曲折後に平成元年の昭和天皇崩御の年に、国立がんセンター病院、臨床検査部に正職員で採用されました。初めの配属は血液検査室で、当時はまだ伝票運用でした。血液内科の湊先生に

ご指導頂き、骨髄像を読んで、伝票に所見と診断を記入し自分のサインを初めてした時の責任の重さは、現在でも忘れられません。その後志願し生理検査室に配属が叶い、現在まで生理検査中心で主に超音波検査に携わってまいりました。当時は、まだレントゲン写真で画像を撮影し、シャーカステンに貼って所見を手書きしておりました。終電まで多くの症例を見、土日は勉強会に参加して、今考えると「若かったなあ」と思います。その後、平成16年に国立がんセンター病院 がん予防・検診研究センターに配置換になりました。当時、がんセンター総長の垣添先生が、健診を受診され、CTでも描出できない小さな腎臓がんを超音波で発見し、とても感謝された事がありました。平成18年に国立がんセンター東病院に転勤し、2時間半の長距離通勤をし、ISO15189取得を経験しました。平成26年にNHO埼玉病院に転勤し、又しても苦手なISO15189取得に遭遇し、21時の退勤が早い退勤時間とを感じるなど、そのころは心が病んでいた様に思います。その後、平成31年にNHO久里浜医療センターに配属され、海を毎日眺められる癒しの時間を過ごしながら心身が回復し、令和4年に地元のNHO横浜医療センターに配属されて現在に至ります。どの病院でも、腫瘍や疾患を見つけると、その後患者さんが訪ねていらして、感謝していただけるのがモチベーション維持につながっておりました。今振り返ると、仕事に厳しいながらもしっかりと教えてくれる上司と、言うことを聞かない部下、話を聞いてくれる同僚に恵まれて、辞職することなく定年を迎えられる事はとても幸運であったと感謝しております。最後になりますが、国臨協関信支部の発展と皆様のご多幸とご活躍を心より祈念して、挨拶とさせていただきます。長い間ありがとうございました。



### NHO新潟病院 柳田 光利

新型コロナも5類に移行となったこともあり、昨年、中学の同級生で「還暦」の会を催しました。その際、定年後が話題となり、とうとうその時がきたと痛感しました。国立病院には霞ヶ浦、高田、新潟と3施設で36年7カ月間勤務させて頂きましたが、正直「これで良かったのか？」という気持ちが残ります。

振り返って「私は何か残せたのだろうか？」と考えた時に、やはり唯一言える事は、インフルエンザ関連の研究だと思います。それは日本臨床検査医学会の「学術推進プロジェクト研究課題」に応募した「Real-time PCR法を用いたインフルエンザウイルス網羅的検出法の確立とハイリスク患者および脳症患者を主な対象とした臨床的有用性の検討」が採択され、研究助成金(100万円)を頂くことができました。その助成金と新潟病院の研究費を含めて研究を進め「臨床病理」に投稿した2本の論文のうち、1本が優秀論文賞に選ばれました。応募のきっかけは、2009年の新型インフルエンザに遡ります。当時そのパンデミックに際し、前富沢院長先生指揮のもと「筋ジストロフィー、神経難病、重度心身障害児(者)病棟やPost-NICU病棟等のハイリスク患者から一人の死亡者を出さない」をスローガンに様々な対策を講じました。その一環としてPCR装置を導入し早期診断、感染対策を行いました。この担当となった私に当時の中島哲技師長は「この試薬は高いから、一回も失敗するなよ」と言われ、その時目に飛び込んできたのがこの公募でした。後から知ったのですが、この公募に採択され論文賞を受賞できたのは、私以外医師だけとのことでした。そして、この研究が後の新型コロナのPCR検査や感染対策にも役立ちました。理由はともあれ、研究を承諾しご指導して下さいました先生方や諸先輩方に深く感謝し、定年の挨拶したいと思います。有難うございました。

### そのほかに退職される会員の方々

氏名	施設名称	役職名
前澤直樹	国立がん研究センター中央病院	臨床検査技師長
菅原恵子	NHO村山医療センター	臨床検査技師長
樋口晶子	NHO久里浜医療センター	臨床検査技師長
中村茂	NHOさいがた医療センター	臨床検査技師長
太田和秀一	国立国際医療研究センター国府台病院	主任臨床検査技師
中野和明	NHO神奈川病院	主任臨床検査技師
小松崎正博	国立国際医療研究センター病院	主任臨床検査技師
後藤みどり	国立国際医療研究センター病院	臨床検査技師



# 令和5年度 国臨協関信支部症例検討会 解説

令和6年3月2日(土)に、国臨協関信支部症例検討会がNHO 東京病院にて集合型とLIVE 配信での同時開催がされました。呼吸器疾患がメインである当院らしく「呼吸器領域における感染症について」というテーマで2症例提示しましたので、僭越ながら解説をさせていただきます。

NHO 東京病院  
小沼 信



症例1は右胸水が貯留しており、その主な原因として、胸膜炎、Meigs症候群、睥炎、うっ血性心不全、肝硬変、ネフローゼ症候群などが挙げられ、前者3つは炎症により毛細血管透過性が上昇するため滲出性胸水が、後者3つは静水圧の上昇や膠質浸透圧の低下により漏出性胸水がそれぞれ貯留します。また、血清および胸水の検査結果をLightの基準に照らし合わせると滲出性胸水と判断され、性別や胸水AMYから胸膜炎が疑われます。

胸膜炎の主な原因としては悪性腫瘍、結核、肺炎などが挙げられますが、胸水細胞診の結果が陰性であり、ProGRP以外の腫瘍マーカーが上昇しておらず、またProGRPも血清CREが高くe-GFRも低いため、偽高値が疑われることから悪性腫瘍由来は否定的です。胸水の細胞分画がリンパ球優位であり、WBCの上昇が認められないこと、一般細菌検査で有意な菌が検出されていないことから肺炎由来が推測疾患から除外されます。

結核由来の特徴としては喀痰検体から抗酸菌の検出、胸水中のpHや糖の低下が挙げられ、検査結果との不一致を認めますが、初感染病巣で抗酸菌の閉じ込めが成功していれば排菌はされず、菌数により糖の消費量やそれに伴うpHの低下は変動するため否定ができないことから、結核性胸膜炎を第一に疑いつつ、胸水ADA活性や細菌培養、IGRA検査、胸膜生検、放射線検査による追加検査を行い鑑別していきます。

追加検査では、ADA高値、T-SPOT陽性、肺門部リンパ節に腫大は認められず、胸膜生検では類上皮細胞性肉芽腫散見、胸水培養および胸膜生検培養にて抗酸菌が検出され、その後結核菌と同定され、結核性胸膜炎と診断されました。

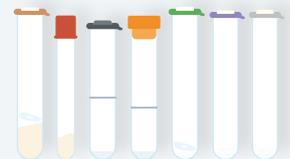
症例2は両肺間質影、呼吸不全、労作によるSpO2低下を認め、また、ステロイド剤や広域抗

菌薬の投与もされています。

免疫検査で $\beta$ -Dグルカン高値であり、肺炎の起因となる細菌やウイルスの抗原、抗体検査が陰性であることや広域抗菌薬を投与しても改善が認められないことから、クリプトコッカス以外の肺真菌症が疑われます。肺真菌症には肺アスペルギルス症、肺クリプトコッカス症、肺ムコール症、ニューモシチス肺炎(PCP)、肺カンジダ症がありますが、肺アスペルギルス症は発病の場となる先行肺疾患がある、肺ムコール症では細胞壁の主要成分がキトサンであり $\beta$ -Dグルカンは上昇しない、肺カンジダ症では血行性感染が多いため胸部画像検査にて小粒影状のランダム分布パターンを示すといった特徴があり、診療情報や検査結果と不一致であることや、急な発熱、 $\beta$ -Dグルカンの著明な上昇、PaO<sub>2</sub>の低下といったPCPの特徴と症状や検査結果が合致していることからPCPが第一に疑われます。

追加検査としてはBALF、TBLB検体からの病理学的検査や遺伝子検査が挙げられますが、患者の酸素状況によっては気管支鏡検査が難しい場合もあります。今回当院では喀痰の遺伝子検査において陽性となったことからPCPと診断されました。

今回の症例検討会開催にあたり、特別講演をご担当くださいました扇谷先生、ご協力くださいましたパネリストの方々、貴重な経験をさせていただいた関信支部役員、ご参加くださいました会員の皆様に感謝申し上げます。



# 研修会

オンライン

レポート



## 令和5年度第2回国臨協関信支部主催 研修会に参加して

NHO 甲府病院  
三上 大



令和5年12月1日（金）から12月28日（木）にオンデマンド配信にて開催された第2回国臨協関信支部主催研修会に参加させていただきました。

演題1では、認定輸血検査技師、認定一般検査技師、細胞検査士等複数の資格を取得された先生方の講演で、タスク・シフトが推奨される中、幅広い分野の業務スキルが求められていると実感しました。認定試験の実技試験では用手技の手技を問われる問題が出題されるとあり、機械化が進む通常業務では手技の取得は困難で先輩に教授いただくか、研修会への参加で習得することとなります。また、院内や他施設の技師の方と交流を深め、スキルを磨き、先輩に繋いでいくことが重要であると感じました。当検査科は若い技師が多く、協力しながらスキルアップを目指し、認定資格の取得に向け精進したいと思います。

演題2ではゲルカラム法を中心とした講演で、D陰性確認試験の試験管法で使用する抗D抗体をポリクローナルに変え、ABO血液型カードに含まれる2種類のモノクローナル抗D抗体との組み合わせで、Partial DやWeak Dの判別の補助となることや、症例毎の判定方法は日常業務にも生かせるため、輸血検査の基礎知識を向上・再確認する良い機会となりました。

現在は検体検査全般に携わっており、日々の業務や研修会に参加することで多くの症例を経験でき知識や手技の習熟度を上げて、認定資格を取得し幅広い分野で活躍できる臨床検査技師を目指したいと考えています。次回の関信支部主催研修会に参加する際には、他施設の方々との交流や様々な情報共有が対面で出来ることを楽しみにしております。最後になりますが、当研修会を企画開催していただいた関信支部理事の皆様、ご講演いただきました講師の先生方に心より感謝申し上げます。

## 令和5年度臨床検査の精度確保および 品質マネジメントシステム研修に参加して

NHO 渋川医療センター  
藤川 穂香



この度関東信越グループ主催の「臨床検査の精度確保および品質マネジメントシステム研修」を受講させていただきました。研修は2部制となっており、第1部は1月15日からeラーニングを用い、「職場改善とPDCAサイクル」「内部監査の実施」「是正の実施」「記録の実施」「国立病院機構における要求事項」「ISO 15189：2022版への移行とフレキシブル認定」についてのスライドを拝聴しました。品質マニュアルを頂点としたQMSを構築する階層の中で具現化するために必要なプロセスアプローチや活動、ISO15189の最新情報等を分かり易く解説していただき、検査部門や検査技師に求められている（やらなければいけない）事項への理解を一層深めることができました。

2月8日に開催された第2部（Webex）では、事前に提示されていた課題についてグループワークを実施しました。実際の写真から違和感を抱く点を挙げ、その理由や原因、改善方法についてグループ内で討議をしたり、事例課題に対して、潜在的な原因の分析や直ちに不具合を除去するために打つべき対処（修正処置）、再発防止のための根本原因の排除（是正処置）に対して是正・予防処置計画を作成しました。

グループ内で討議し多様な意見や考え方に触れることで、自分では見落としていた潜在的な不適合の存在や原因を除去するための処置策を学ぶことができ、目に見えていることだけが解決の糸口に繋がるわけではないことを改めて認識することができました。不具合に対しては多角的に掘り下げ、俯瞰的に物事を捉えることを実践していきたいと思います。また、ISO15189の認定取得の有無に関わらず品質システムサイクルの中で、この分野の専門家として責任を持ち、全ての利用者にとって安心・安全な医療が提供できるよう、業務に励んでいきたい所存です。

最後になりますが、本研修の企画、開催にご尽力くださいました関東信越グループの皆様と、講師の先生方に心より感謝申し上げます。

# 研修会

レポート



## 令和5年度臨床検査技師実習技能研修3(輸血)に参加して



NHO 災害医療センター  
水田 涼太郎

令和6年1月18日(木)・19日(金)の2日間のプログラムで令和5年度臨床検査技師実習技能研修3(輸血)が本部研修センターにて現地開催され、昨年に引き続き参加させて頂きました。

1日目はHLA検査・タスクシフト・症例に応じた輸血検査など座学中心の講習となりました。後半は輸血検査の基礎知識の学習から始まり、動画での試験管の振り方や凝集判定の目合わせを行いました。自分は実務にてw+~2+の判定で苦慮することがあったため要点を抑えた動画を視聴して強く記憶に残るものとなりました。

2日目は前半に輸血検査室の運用や認定輸血検査技師資格を取得した先輩技師の体験談を踏まえた試験対策を学びました。ご講演を拝聴し感じたことはやはり相当な努力を要するということでした。今年、認定輸血検査技師試験を受ける予定のため、今回の研修会を通して改めて身の引き締まる思いとなりました。後半は前日に動画視聴したことを踏まえ、実際にABO血液型判定の実技講習を行いました。普段の業務で行っていることですが、実際に実習を通して要点をひとつずつ抑えていくと自分の手技に無駄な行動や逆に不足している工程が如実に現れ、自分の未熟さを痛感させられました。しかし、前向きに捉えれば今後の課題が見え、実りのある時間となったと感じております。

今回の実技講習はオンデマンドや机上の学習では得られない充実した時間となりました。この経験を活かし、認定輸血検査技師資格取得に向けて研鑽を積んでいく所存です。最後になりますが、ご多忙の中ご指導いただきました先生方、ならびに企画・運営いただきました関東信越グループの皆様へ厚く御礼申し上げます。



NHO 村山医療センター  
鹿毛 亮佑

令和6年1月18日~19日の2日間、国立病院機構本部研修センターにおいて、令和5年度臨床検査技師実習技能研修3(輸血)が4年ぶりに対面形式として開催されました。

1日目は関東信越グループ山田康博総括長のご挨拶から始まり、輸血医療におけるHLA検査、輸血のタスクシフト・臨床支援、症例や状況に応じた輸血検査の進め方と対応、輸血業務こんなときどうする?、輸血検査の実際についての講義があり、その後グループに分かれオモテ・ウラ不一致における血液製剤の選択、状況に応じた対応の仕方等を話し合い、意見交換を行いました。2日目は輸血担当技師に必要なこと、輸血管理室の

取り組みと臨床への関わりについての講義があり、認定輸血検査技師の皆様をファシリテーターとして凝集目合わせABO血液型の実習を行いました。凝集目合わせを確認していただきながら行ったことで、以前までの試験管の振り方では強かったことがわかり、今まで以上に慎重に行おうと思える実習内容でした。輸血検査の基礎から臨床への関わり、認定輸血検査技師試験の体験談と幅広い内容を聞くことで、どの様に順序だて考え進めていくのかを改めて考えさせられたと同時に復習にもなりました。



今回の研修で他施設の技師の方々、認定輸血検査技師の皆様とお話する機会もありとても充実した2日間を送ることができました。この研修で学んだことを活かし、日々の業務に役立て実践していきたいと思えます。

最後になりましたが、ご多用の中今回の研修を企画、開催してくださいました関東信越グループの皆様、講義をいただきました講師の先生方、2日間の研修に参加させていただきました自施設の皆様へ心より御礼申し上げます。

## 令和5年度臨床検査技師実習 技能研修2(微生物)を参加して

NHO 千葉医療センター  
小泉 達也



令和6年2月15日、16日の2日間、国立病院機構本部研修センターにて令和5年度臨床検査技師実習技能研修2(微生物)が開催されました。

研修1日目は、細菌検査における精度管理・精度保証、医師と技師のコミュニケーションについての講義が行われました。本講義では標準菌株を用いた内部精度管理の必要性や運用方法、血液培養の精度向上に必要な手法などを学ぶことができ、当院における内部精度管理、また医師への結果報告や関わり方を見直す良い機会となりました。

グループワークでは症例および試験管培地を用いた同定について検討・発表を行いました。試験管培地は当院を含め、自施設で扱っていない方が多く、お互いの知識を補完し合いながら、グループワークに取り組むことができました。

研修2日目は、医師や薬剤師などの講師から抗がん剤治療患者における感染対策、抗菌薬の基礎、肝炎についての講義が行われました。ここでは抗がん剤治療患者におけるワクチンの必要性、抗菌薬の基礎から現場での応用方法までを丁寧にご説明いただき、臨床検査技師が抗菌薬の知識を兼ね備えることの重要性を学ぶことができました。2日目のグループワークは、ヒヤリハットをテーマにいくつかの事例をグループ内で検討しました。紹介された事例は自施設でも起こりうる内容でしたので、当院でも共有していきたいと思えます。

今回の研修は4年ぶりの現地開催となり、日々、悩んでいることや他施設での検査運用方法などを講師の先生方や他施設の方々に対面で直接伺うことができました。対面での交流はWeb勉強会では得られない刺激を受けることができ、日常業務に対するモチベーションが向上する有意義な研修会となりました。

最後に、この度の研修会を企画・運営してくださいました関東信越グループ関係各位、並びにご多忙の中、ご講演してくださいました講師の先生方に心より感謝申し上げます。



## 認定資格で LEVEL UP



### 認定輸血検査技師

NHO まつもと医療センター  
三觜 智子



昨年度よりまつもと医療センターに赴任し、血液・輸血部門を中心に担当しています。これまで血液分野をメインに輸血・検体検査を担当していましたが、輸血に対する専門的な知識不足を強く感じていました。臨床への対応や後進育成のため、輸血業務への理解を深めるべく2023年度認定輸血検査技師を受験し、合格いたしました。

認定資格の受験には経験年数や単位数の取得が必要です。すぐに受験する気がなくても受験要綱を一度確認しておくと思います。学会ではネームプレートが参加証明書となっていますが、知らずに捨ててしまったという話をよく聞くので注意してください。受験申請が受理されると事前課題が届きます。この事前課題が大変役に立ちま

した。教科書を読むだけではなかなか頭に入ってきませんでしたが、自分で解答を作成することで全体の学習が出来、一次試験(筆記)の対策に役立てられました。二次試験(実技)は血液型と抗体検査の二部構成です。試験前の指定施設での研修は実技実習もあるので疑問点を質問することが出来、大変助かりました。試験までに参加出来ませんでしたでしたが、輸血テクニカルセミナーなどの実技講習会などに参加出来ると良いと思います。実技試験ではあまり時間に余裕は持てませんでした。試験だからと慎重になりすぎると時間内に終わらないかもしれません。ルーチンから基本の手技を確実に実施するよう意識していました。

入職時に輸血検査の基礎を教えてくださいました先輩方や先生方、今回の研修でお世話になった皆様に心から感謝申し上げます。今回受験したことで、まったく見えていなかった輸血検査の全体像を垣間見れたように思います。今後もいっそう励んでいきたいです。

# アフターコロナ通信

post-corona

## 群馬地区会定期総会に参加して

令和5年11月18日(土)に高崎総合医療センター2階大会議室において、令和4年度国臨協関信支部群馬地区会定期総会が集合型で開催されました。来賓として関東信越グループより前島臨床検査専門職、国臨協本部より原田常任理事、国臨協関信支部より鷹取理事のご臨席を賜りました。

第1部では前島臨床検査専門職から「専門職からの伝達事項」と題して国立病院機構の概要、各種認定試験の取得状況、主任選考試験や採用情報などの内容をご講演頂きました。向上心を持って日々の業務に従事する為にも各種研修や認定試験などに積極的に取り組んでいきたいと考えました。続いて国臨協本部原田常任理事から「国臨協本部の活動について」と題してご講演頂きました。国臨協の概要や活動の内容を拝聴し、会員情報を毎年手入力で行っていることなど理事の方々のお力によって円滑に運営されていることを知りました。第1部の最後には国臨協関信支部より鷹取理事から「関信支部からのお知らせ」と題してご講演頂きました。第2部の群馬地区会定期総会は新谷会長の挨拶に始まり、令和4年度の事業経過報告が行われました。その後議案審議、新役員の選出が行われ、会員の承認をもって無事に終了しました。

令和5年度の新採用で入職した私にとって初めての地区総会であり、会員の皆様に挨拶することが出来て、大変嬉しく思います。今後も地区会の活動を通して会員の皆様との親睦を深めていきたいと思っております。

最後になりますが、お忙しい中ご講演頂いた前島臨床検査専門職、国臨協本部原田常任理事、国臨協関信支部鷹取理事、そして今回の群馬地区会定期総会を企画し開催して下さいました群馬地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。



NHO 高崎総合医療センター  
**中島 果鈴**

## 長野地区会文化活動に参加して

令和5年12月9日に長野地区会文化活動が開催されました。コロナ禍で文化活動は行われていなかったため、4年ぶりとなりました。

文化活動の開催場所は長野県千曲市にある茅葺屋根が素敵な「蔵元坂井銘醸」で、約2000石の清酒を造ってきた歴史ある酒蔵見学とその敷地内にある「焼きもの処 陶(とう)」での陶芸体験、「蕎麦料理処 萱(かや)」での懇談会・会食が行われました。

酒蔵は慶応2年(1866年)に建てられた歴史ある建物で、現在ここで酒造りは行われておりませんが洗米所・釜場・麹室や酒造りの道具がそのままの状態で見学することが出来ます。当時の酒造りの話を聞き、改めてその大変さを感じる事が出来ました。

陶芸は初めての体験でとても楽しみにしていて、湯呑とマグカップに挑戦しました。最初は湯呑を作ろうと思ったのですが自分のイメージ通りにはならず、気付いた時には小鉢に変形してしまかなか難しいものだと感じました。マグカップは湯呑の反省を生かし、お気に入りの作品が出来上がりました。

懇談会・会食では、郷土料理の「おしほり蕎麦」をいただきました。この地域特産の辛みの強いねずみ大根をすりおろし、そのしほり汁に信州みそを加えたものを付け汁とした蕎麦です。長野県で長く暮らしていますが、初めていただきました。食べ始めは、あまり辛さを感じませんでしたが、食べ進めると次第に辛さを感じ食べることが出来るかと不安になりましたが、気付くと最後の一口になっていました。また食べたいと思わせる不思議な蕎麦でした。

今回、長野地区会会員の皆様と久しぶりに交流が出来たことは、私にとってとても有意義な時間となりました。今後もこのような文化活動を通して交流を深めていけたらと思います。

最後に今回の文化活動を企画して下さいました長野地区会理事の皆様にご心より感謝申し上げます。

NHO 東長野病院  
**内山 美樹**



# 学術のスズメ



## ジェネティックエキスパート(日本遺伝子診療学会)を取得して

2023年12月に、日本遺伝子診療学会が認定するジェネティックエキスパート認定制度を受験しました。私がこの資格の取得を目指したのは、所属する遺伝子検査室内にがん遺伝子パネル検査のエキスパートパネルを実施している先生方がいらっしゃるの、いつかは自分でも結果を解釈できるようになりたいと思っていたのと、実際にNGSを扱うようになり、少し知識が伴ってきたからでした。



国立がん研究センター  
中央病院  
山口 佳織

ジェネティックエキスパートは「ヒトを対象とした遺伝子関連検査や遺伝情報を取り扱うにあたり、情報を適確に選択して検査・解析結果を正確に解釈し、その意義を報告できる」ことを主な目的とし、2015年に立ち上げられた比較的新しい認定制度です。

例えば、現在では病的意義が知られている遺伝子配列をPCR検査で検出するだけでなく、次世代シーケンサー(next generation sequencer;NGS)により hotspot(病的な遺伝子の変異が起きやすい領域)から全ゲノム領域まで、格段に広い領域を解析することが多くなりました。そこで発生するのが、よくわからない遺伝子変異の検出です。検出された変異には病的意義があるのか。治療薬は開発されているか。それともただの遺伝子の傷であり特に意味はないのか。まだ意義が不明なのか…。これらの意義も、刻一刻と変わっている可能性があります。よって現在の最新の情報を検索、確認できることが必要となっています。

### 【認定試験について】

受験資格でポイントとなるのは、まず「ヒトを対象とした遺伝子関連検査の実務経験」が基本的に3年以上必要となります。対象がヒトなので、新型コロナウイルスのPCR検査等の病原体遺伝子検査は実務経験として認められません。また、2名からの推薦が必要で、「うち1名は日本遺伝子診療学会役員あるいは評議員であること」とあります。推薦者を紹介して下さる方が必要となります。

認定試験は年1回実施されます。近年はzoomによるオンライン試験で、選択式筆記試験90分、Web検索式実技試験120分です。

試験対策は、ジェネティックエキスパート到達目標があり、筆記試験、実技試験ともに過去問が公開されているため、到達目標を確認しながら過去問を解きました。この資格は情報検索が出来ることが必須なので、本番の実技試験でも様々なデータベースを検索します。ネットが使えるのだからググれば余裕ではないかと思われる方もいらっしゃると思いますが、Google先生に頼れるのはデータベースの入り口までです。見知らぬ疾患や遺伝子について、1塩基しか変わらない大量のリストから目的のものを見つけ(リストにない場合もある)、ガイドラインに当てはめ…というのはいつまで経っても慣れません。試験に合格できても、まだまだ勉強していかなければと感じています。



### 【結語】

私は生殖細胞系列に関する経験がほぼありませんでしたが、今回勉強したことで生殖細胞系列への高い壁が少し低くなり、興味を持てたことは大きな収穫でした。受験にあたり、日頃からご指導いただいている先生方に感謝を申し上げます。今回の知識を活用できるよう、継続して学んでいきたいと思っています。

# 会員のひろば

## 野球観戦のお勧め

NHO 茨城東病院  
福岡 佑基



2023年、一番のニュースといえば何が思い浮かぶでしょうか。私が真っ先に思い浮かんだのは野球の世界大会であるWBCで日本が14年ぶりに優勝したことです。その中でも特に大谷翔平選手の活躍は記憶に残っている方も多いのではないのでしょうか。

私の趣味は野球観戦です。私自身、小学校から中学、高校、大学のサークルで野球を続けていたこともあり、時間があるときには野球のニュースや試合を見たり、とにかく野球が好きです。その中でも試合をしている球場での観戦が特に好きです。いま日本には、プロ野球の球団が12球団あり、それぞれの球団が様々な特徴を持った本拠地球場を持っています。

球場での試合観戦の醍醐味は、試合中の熱気がじかに感じられることと、球場限定の食べ物、いわゆる球場飯が食べられることです。どのスポーツであっても共通かもしれませんが、球場での観戦はテレビなどの画面上とは違い、様々な音が聞こえてきます。特に野球では、選手同士が掛け合っている声や、ボールがバットに当たる音、応援する人たちの歓声や応援歌などがとてもよく聞こえます。野球は攻撃と守備を交互に行うスポーツなので、試合をしている両チームのファンがそれぞれで盛り上がりを感じることができると思います。



また、球場飯には選手がプロデュースしたオリジナルのメニューや、「野球場といえば」で思い浮かぶ、ビールに合うような食べ物がたくさん売っています。球場に行って試合を楽しむのはもちろんですが、球場飯のような試合以外の楽しみもたくさんあります。

都内にある神宮球場と、東京ドームは駅からも近くアクセスがよいので、初めての方にはぴったりだと思います。特に東京ドームは空調も効いていて、夏の暑い日などでも快適に野球観戦を楽しむことができます。

さて、そんな私が今年の野球関連の話題で特に気になっているのは、今年から野球の本場アメリカでプレーをする山本由伸投手の活躍です。昨年アメリカのメジャーリーグへの挑戦を表明し、多くの野球ファンがどこの球団でプレーするのか注目していましたが、昨年末あの大谷翔平選手も所属することになったロサンゼルス・ドジャースへの所属が決まりました。WBCにも出場していましたし、日本での成績がずば抜けてよかったこともあり、アメリカではどのようなプレーを見せてくれるのかと、3月のメジャーリーグの開幕を待ち望んでいます。

やはり野球は球場で観戦するのが一番楽しいと私は思います。いつかアメリカに行って実際にメジャーリーグを体感することが私の夢です。

昨年のWBC優勝、大谷翔平選手の移籍など野球の話題を目にすることも多いと思います。3月29日に開幕する日本のプロ野球を、ぜひ球場で体験されてはいかがでしょうか。



解答・解説は関信支部 HP に掲載いたします。

～検査データを読み解き、誤報告を防ぐ～

知識や経験を踏まえ、いち早く異常データに気づき、誤報告を防ぐことができるのは、実務上、臨床検査技師です。日々、知識のアップデートを図り、わからないことがあれば周りに相談、確認しながら、事例を共有し解決につなげていきましょう！

Question

前回に引き続き、検体不備事例に関するデータについて取り上げたいと思います。

以下の検査データに関して、問題 1)～4) について考えてみてください。

\*考え方は関信支部ニュース第 234 号に掲載しているので、一緒に確認してみてください！

- 問題 1) 確認すべき他の検査データは何でしょうか？
- 問題 2) 追加測定すべき項目は何でしょうか？
- 問題 3) どのような検体不備が考えられますか？
- 問題 4) このような検体不備を防ぐには、どうしたら良いでしょうか？

項目名	報告値 2/26	前回値 2/19	単位	項目名	報告値 2/26	前回値 2/19	単位
TP	4.9	6.7	g/dL	Na	134	137	mmol/L
ALB	3.0	4.3	g/dL	K	7.8	4.1	mmol/L
T-Bil	0.56	0.91	mg/dL	Cl	93	103	mmol/L
AST	12	19	U/L	CRP	0.43	0.12	mg/dL
ALT	20	19	U/L	溶血	-	-	
LD	146	207	U/L	乳び	-	-	
ALP	133	151	U/L	黄疸	-	-	
γGTP	24	18	U/L				
T-cho	132	199	mg/dL				
TG	36	41	mg/dL				
UN	11.4	19.3	mg/dL				
CRE	0.54	0.66	mg/dL				



第52回 国臨協関信支部学会

PRIDE ～必要とされる検査技師へ～

多数の皆様のご登録お待ちしております！

演題募集のお知らせ

一般演題募集要項

- 発表形式 → PowerPointによる口演
- 演題登録期間 → 令和6年3月1日(金)～  
令和6年5月31日(金)必着

令和5年度  
国臨協関信支部  
地区代表者会議

令和6年1月20日(土)新橋駅前ビル1号館で地区代表者会議が行われました。

当日の資料および議事録についてはHPをご参照ください。

編集  
後記

春の訪れと共に新たな年度を迎え、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。4月も半ばを過ぎましたが、新生活にはもう慣れたでしょうか。本誌は国臨協関信支部で編集を行い、支部活動や会員情報等を掲載した広報誌です。今年度は本誌を含め紙面2回、PDF版2回の発行を予定しております。235号ではコロナ禍が緩和され、ようやく対面式の集合型で開催された症例検討会や関東信越グループ主催実習技能研修、また地区会活動の記事を掲載しました。支部活動としても今年度は集合型でビアパーティーや関信支部学会等を開催予定としており、会員の皆様にお会いできることを楽しみにしております。今後とも皆様の意向に沿った広報誌作りをしたいと考えていますので、ご意見やご要望があればお近く支部役員もしくはホームページにあります「会員の皆様の声」をご利用いただき、支部へご連絡をいただけたらと思います。どうぞご愛読のほどよろしくお願ひ致します。

広報 齋藤